

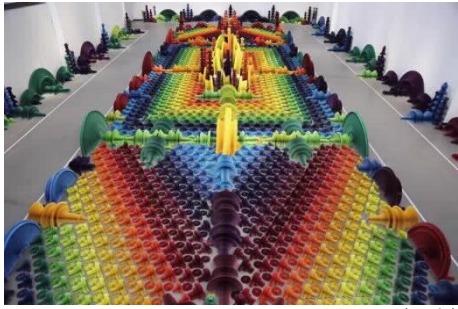


■ 北アルプス国際芸術祭 2020 参加予定アーティスト

新規参加

■ カン・ヒジュン (姜希俊) Kang Hee-joon [Korea] 1958年 韓国光州生まれ／在住。 ネイチャーアーティスト。自然の材料の美と特性を生かし、新たな観点を加えて作品へと作り変える。生命、時、季節、日光、水、石、風といった自然界のメッセージが制作の基本テーマになっている。木を多く用いてきたが、最近では竹にも挑戦している。 作家 HP http://yatooi.com/kangheejoon (YATOO)	 過去作品(The Haze)
■ マナル・アル・ドワイヤン Manal Al Dowayan [Saudi Arabia] 1973年 サウジアラビア生まれ。 彼女の作品はモノクロの作品、彫刻、ビデオ、サウンド、ネオンや大型のインスタレーションなど多岐にわたる。制作活動においては忘却、記録、集団記憶、サウジアラビアの女性の姿と表現が中心的なテーマとなっている。 2014年にはNYU ADのリサーチフェロースhipに選出され、2015年にはフロリダのロバート・ラウシェンバーグ・レジデンスに招待された。 ロイヤル・カレッジ・オブ・アートにて、公共領域アート実践の博士号を取得している。 作家 HP http://www.manaldowayan.com/index.html	 過去作品 (SUSPENDED TOGETHER)
■ 持田敦子 Mochida Atsuko [Japan] 1989年 東京都生まれ／在住。 東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻 修了、バウハウス大学ワイマール 大学院 Public Art and New Artistic Strategies 修了。日常空間や公共空間に介入するような、建築的なインスタレーションにより、空間の意味や質を変容させることを得意とする。 作家 HP http://atsukomochida.jp/	 過去作品 (T家の回転) Photo: 谷浦龍一
■ 木村崇人 Kimura Takahito [Japan] 1971年 愛知県生まれ。 現代美術家。東京藝術大学大学院博士過程修了。École Supérieure d'Art et de Design de Reims (フランス)卒業。「地球と遊ぶ」をテーマに、自然現象を世界の共通言語として捉え、国内外で作品制作やワークショップを行なっている。代表作に「木もれ陽プロジェクト」「カモメの駐車場」「雲になる日」「森ラジオステーション × 森遊会」など。主な展覧会に「越後妻有アートトリエンナーレ」、「瀬戸内国際芸術祭」、「台湾麻豆糖業大地芸術祭」、「あいちトリエンナーレ」などの大型美術展への参加他、個展、グループ展、多数。 作家 HP http://www.takahitokimura.com/	 過去作品 (カモメの駐車場)



■ 李洪波 Li Hong bo [China] 1974 年中国吉林省生まれ、北京在住。 1996 年吉林師範大学芸術学部を卒業。2001 年中央美術学院民間芸術学部で美術学士、2010 年中央美術学院実験芸術学部で修士を修了。紙による独特な表現で知られ、紙をさまざまな形につくり変え、人々の「紙」に対する概念を壊すような作品を展開している。中国の『紙ヒョウタン』という古い技法を用い、優雅で張りのある紙作品を作り出す。これらの彫刻は中国伝統の影響を受けながらも、現代アートとして人々の感覚や視覚言語を呼び起こしている。 作家 HP なし	 過去作品(花海)
---	--

継続展開

■ 青島左門 Aoshima Samon [Japan] 1980 年 静岡県生まれ／大町市在住 絵画、彫刻、コンセプチュアル・アート、舞台美術、絵本など、多様な表現手段で、文明が自然と調和するための方法を探る。2013 年から大町市に住む。 作家 HP http://www.samonaoshima.com/	 北アルプス国際芸術祭 2017 作品 (花咲く星に) Photo by Tsuyoshi Hongo
■ 平田五郎 Hirata Goro [Japan] 1965 年 東京都生まれ／茨城県在住 1990 年に狭く深い穴を掘り内側にパラフィンワックスの壁を持つ白い部屋「Mind Space」を制作。心理的な自分の場所や部屋を作ることをテーマに凍結した湖上、西表島のマングローブ林、砂漠、ヒマラヤ山中、南東アラスカ沿岸部(2005 年)などをひとりで歩行して小さな彫刻を作るフィールドワークを行っている。 作家 HP なし	 北アルプス国際芸術祭 2017 作品 (水面の風景—水の中の光〜山間のモノリス) Photo by Tsuyoshi Hongo
■ 布施知子 Fuse Tomoko [Japan] 1951 年 新潟県生まれ／大町市在住 折り紙作家。パーツを組み合わせて作る「ユニット折り紙」の第一人者として活躍。折り紙ランプシェードや Origami Pots など工業製品も手がける。1986 年に長野県の大町市八坂に移住。著書多数。国内外を問わずファンは多く、英語、ドイツ語、韓国語など翻訳された著書も多い。CDO (Centoro Diffusione Origami)、OD (Origami Deutschland) の名誉会員。 作家 HP なし	 北アルプス国際芸術祭 2017 作品 (無限折りによる枯山水 鷹狩) Photo by Tsuyoshi Hongo



■ マーリア・ヴィルッカラ MaariaWirkkala [フィンランド]	
1954 年 フィンランド、ヘルシンキ生まれ。 詩的な情緒を併せ持つ作品で知られ、自然と人間の関係性における考え方など、大きな自然と闘いながらもそれと共存してきた伝統や、人々の暮らしの中で息づいてきた記憶や伝説を受け入れる作法を制作の基盤としている。 作家 HP https://www.maariawirkkala.com/	 北アルプス国際芸術祭 2017 作品 (ACT)

恒久作品

■ 川俣正 Kawamata Tadashi [Japan]	
1953 年 北海道生まれ / パリ在住 1982 年ヴェネツィア・ビエンナーレに参加し、その後もドクメンタなど、世界的に活躍。2005 年には、横浜トリエンナーレの総合ディレクターを務め、現在はフランス、パリ国立高等芸術学院の教授。建築や都市計画、歴史学や社会学、日常のコミュニケーション、あるいは医療にまで及ぶ分野と関わるプロジェクトを実施。 作家 HP http://www.tdashikawamata.com/	 北アルプス国際芸術祭 2017 作品 (源波・林間テラス) Photo by Tsuyoshi Hongo
■ 目 Mé [Japan]	
現代美術家 荒神明香、wah document らによって 2012 年に組織されたクリエイティブチーム。個々のクリエイティビティを特性化し、連携を重視するチーム型芸術活動。中心メンバーは、ディレクターの南川憲二、アーティストの荒神明香、制作統括の増井宏文の 3 名。果てしなく不確かなこの世界の可能性を信じ、その魅力の先を鑑賞者の実感に引き寄せようとする作品を展開。 作家 HP http://mouthplustwo.me/	 北アルプス国際芸術祭 2017 作品 (信濃大町実景舎) Photo by Tsuyoshi Hongo
■ 浅井裕介 Asai Yusuke [Japan]	
1981 年 東京生まれ 絵描き。テープ、ペン、土、埃、葉っぱ、道路用白線素材など身の回りの素材を用いて、キャンバスに限らず角砂糖の包み紙や紙ナプキンへのドローイング、泥や白線を使った巨大な壁画や地上絵のシリーズまで、あらゆる場所と共に奔放に絵画を制作する作家。 作家 HP https://asaiyusuke.hatenadiary.org/	 北アルプス国際芸術祭 2017 作品 (土の泉) Photo by Tsuyoshi Hongo



■ ジミー・リャオ（幾米） Jimmy Liao [Taiwan]

1958 年 台湾生まれ／台湾在住。

台湾のベストセラー絵本作家。絵を言語にみたてた斬新な方法で、詩的で魅力あふれる作品をこれまでに 60 ほど発表しており、その多くがアメリカ、ヨーロッパ、日本、韓国、タイ等 20 以上の言語に翻訳されている。また、英語の絵本も共著していて、Joyce Dunbar との”The Monster Who Ate darkness”や Jerry Spinelli との”I Can Be Anything!” などがある。

作家 HP

<http://www.jimmyspa.com/>



北アルプス国際芸術祭 2017 作品
(私は大町で一冊の本に出逢った)
Photo by Tsuyoshi Hongo